

# 衝動と美

1980年代以後、美術のみならずデザインや出版、音楽など広範な分野で影響力を持ち、現在も精力的に活動を続ける画家・大竹伸朗の、九州初個展を開催します。

1955(昭和30)年、東京に生まれた大竹伸朗は、18歳で画家になることを決意。自らを試すため飛び込んだ北海道・別海の牧場での無給労働や、英国・ロンドンでの制作や出会いを通じて自らの進むべき道を見いだしました。1982(昭和57)年の東京での初個展で衝撃的に美術界に登場して以後、次代を担う美術家として注目され、国内外の展覧会に数多く出品を重ねてきました。

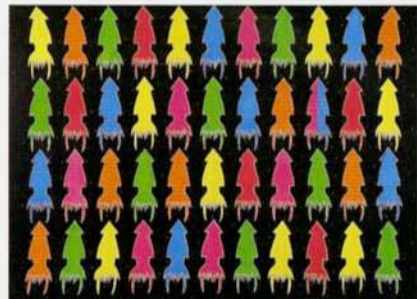
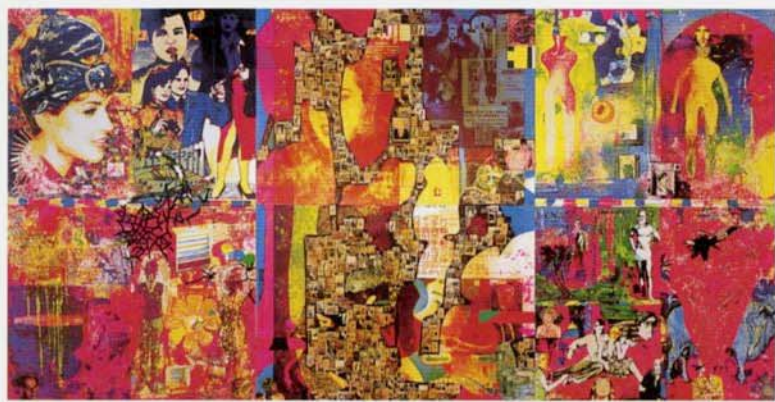
大竹の作品は、写真や廃材、印刷物など様々な素材をスクラップする手法で制作される平面や立体、多数の油彩画や木炭画、水彩画など多岐にわたり、そのいずれもが強烈な制作衝動に裏打ちされ、濃密な生命力にあふれています。

しかし、大竹伸朗へのこれまでの評価は必ずしも正当であったとは言えません。1988(昭和63)年に活動の拠点を東京から愛媛県宇和島に移してしまっただけでなく、大竹のスタンスは日本の美術界からやや距離を置いたものとなり、多様で膨大な作品群に真っ向から切り込む批評もありませんでした。本展では、大竹伸朗の膨大な数の作品の中から、代表作約600点を選び、さらにそれらにいくつかのテーマと流れに分けて展示し、画家の創造世界を深く掘り下げ、来るべき批評の一助としたいと思います。

大竹伸朗が制作衝動に駆り立てられるきっかけとなるのは、通常の「芸術」や「美」の概念領域には入りにくい「既にそこにあるもの」との遭遇です。日常生活や旅先の路上で出会うゴミ、印刷のヤレ(刷り損じ)、壁のシミ、見慣れぬ風景など、彼の外側にあらかじめ存在する、人の無意識の気配や時間の痕跡を濃密にたたえた事物、さらには夢のイメージや目を閉じた時にまぶたに移ろう、彼の内側に存するおぼろげな形態。多くはありふれていて、時に安っぽくすべらかな事物の佇まいや気配こそが、彼に「新しい宇宙」を投げかけるのです。

大竹伸朗が遭遇した事物は、ほとんど手を加えられずそのまま提示されることもあれば、彼の内部に形として沈殿しやがて変容を遂げ、作家本人も意図しない方向へとずれていく場合もあります。また一方で、それらは大竹の手によって別の何物かと組みあわせられ、作品の中で多重/多数の画面を形成し、きわめて重層的な作品へと変化することもあります。

本展では、大竹伸朗の作品世界の幅広さに注目しつつ、大竹自身と路上の「既にそこにあるもの」とが遭遇し、それが彼の手により変容する様子、そして彼が遭遇した事物やイメージ同士が互いにぶつかり合い、または静かに寄り添っている様子を、過去の展覧会未発表作約120点を含む総数約600点もの絵画、水彩、素描、彫刻などによってたどり、日常という「路上」に、「ニュー宇宙」は見えるか？



1	2	3	1 ベンテッド・マターI(アトランタ) [1997]	Painted Matter I (Atlanta)
4	5	6	2 J.H. [1991]	J.H.
7	8	9	3 ストラト [1975]	Strato
11	12	13	4 スクラップブック No.63 (Uwajima) [2003]	Scrapbook No.63 (Uwajima)
14	15	16	5 アルヘシラスからタンジール [1993]	From Algieras to Tangier
			6 ベンテッド・マター / 番号 [1997]	Painted Matter / Code
			7 WEB [1990-91] 福岡市美術館蔵	WEB
			8 網膜 (夜熱4) [1990]	Retina (Night Fever 4)
			9 網膜 (ワイヤー・ホライズン、タンジェ) [1990-93]	Retina (Wire Horizon, Tangier)
			10 網膜 (ニュー・トン・オブ・タンジェ II) [1992-93]	Retina (New Tong of Tangier II)
			11 露光 / 露光内 [2003]	Exposure / Utashinai
			12 網 [2003]	Cape
			13 日本景 / 東京 II [1997]	Japanorama / Tokyo II
			14 夜空 / 網 [1996]	Night Sky, Oki
			15 ジャリおじさん 表紙	Picture Book, Monsieur Jarry, Cover
			16 帯電都市 田 [2003]	Electricity III

※写真撮影：中野正典、平野啓子、山崎健一



## 福岡市美術館 特別展示室A

問い合わせ＝福岡市美術館 〒810-0051 福岡市中央区大濠公園1-6  
telephone: 092-714-8051 <http://www.fukuoka-art-museum.jp/>

開館時間＝9:30-19:30 [日曜、7/16は17:30まで] 入館は閉館時間の30分前まで

休館日＝毎週月曜日 ただし、7/16(月)は祝日のため開館し、翌7/17(火)が休館

観覧料＝一般:1,200円 [1,000円] 高・大生:800円 [500円] 小・中生:無料

[ ]内は前売りおよび20人以上の団体、シルバー手帳・身体障害者手帳・精神障害者保健福祉手帳・療育手帳保持者の割引料金  
前売券販売：ローソンチケット(Lコード85181)、チケットぴあ(Pコード687-354)ほか主要プレイガイドにて発売

主催＝福岡市美術館、読売新聞西部本社、FBS福岡放送  
助成＝野村国際文化財団、(財)福岡文化財団  
協力＝ベースギャラリー／後援＝(財)福岡市文化芸術振興財団

2007年7月14日(土) → 8月26日(日)

New Universe on the Road

Ohtake Shinro

- 1955年 東京都目黒区に生まれる。
- 1974年 画家を志し、東京藝術大学を受験するが不合格。武蔵野美術大学に補欠入学。直後に休学し、北海道別海町の牧場で1年間無休/無給労働。
- 1977年 ロンドンに渡り、1年間過ごす。ラッセル・ミルズ、デイヴィッド・ホックニーとの出会いに刺激を受ける。
- 1980年 ノイズバンド「JUKE/19」結成。
- 1982年 東京のギャラリー・ワタリで初個展。「ニューペインティングの旗手」として急速に注目を集める。
- 1985年 ロンドンのICAで個展。
- 1986年 画集《倫敦/香港》(用美社)を刊行。翌年この豪華本がADC最高賞受賞。
- 1987年 東京の佐賀町エキジビットスペースで個展。
- 1988年 愛媛県宇和島市に拠点を移す(現在まで制作拠点とする)。
- 1990年 奨学金を得て米国滞在。日本の現代美術を米国に紹介する「アゲンスト・ネイチャー」展出品。
- 1991年 作品集《SO》刊行。あわせて東京、大阪で個展。
- 1993年 モロッコへ旅行。福音館書店より絵本《ジャリおじさん》刊行。
- 1994年 モロッコ旅行記《カスバの男》(求龍堂)刊行。香川県の直島コンテンポラリーアートミュージアムの展覧会「Out of Bounds 海景の中の現代美術展」に出品。
- 1995年 ヤマタカ・アイと音楽ユニット「バズルバンクス」結成。
- 1997年 福島のCCGA現代グラフィックアートセンターで個展「Printing/Painting」。
- 1998年 新潟県の新津市美術館で個展「新津-あいまいで私が日本」。
- 1999年 東京のバルコギャラリーで個展「日本景」。画集《ZYAPANORAMA 日本景》(朝日新聞社)刊行。エッセイ集《既にそこにあるもの》(新潮社)刊行。
- 2000年 ベイスギャラリー(東京)、キリンアートプラザ(大阪)で個展。
- 2004年 写真・画集《UK77》(月曜社)刊行
- 2006年 東京都現代美術館で空前規模の回顧展「全景」開催。あわせて北海道別海町のウルリ-牧場、東京のベイスギャラリーで個展。ベネッセアートサイト直島の「Standard 2」に出品。
- 2007年 福岡市美術館、広島市現代美術館で個展「路上のニュー宇宙」。

会期中のイベント

7月14日(土)14時~/1階講堂  
アーティストトーク:大竹伸朗による大竹伸朗

※聴講無料、申込み不要です。直接会場にお越しください。

8月17日(金)20時~/閉館後に行います/特別展示室A  
ジョイントライブ:内橋和久とダブ平&ニューチャネル(大竹伸朗)

※2,500円(大竹伸朗展観覧券付)。鑑賞ご希望の方は、住所、氏名、電話番号を明記して、

往復ハガキで下記までお申し込み下さい(ハガキ1枚につき1名様)。

締め切りは7月10日(必着)。応募者多数の場合は抽選となります。

〒810-0051福岡市中央区大濠公園1-6 福岡市美術館「大竹ライブ係」

交通のご案内

地下鉄

空港からは福岡空港駅より15分、JR博多駅からは10分で大濠公園駅下車、3番出口より徒歩10分。

天神からは天神駅より5分で大濠公園駅下車、3番出口より徒歩10分。

または、天神南駅から8分で六本松駅下車、2番出口より徒歩10分。

西鉄バス

JR博多駅からは、交通センターより[系統番号13・140]で

城内-美術館東口下車、徒歩3分。

天神からは、協和ビル前より[系統番号13・140]で城内-美術館東口下車、

徒歩3分、[系統番号12]で赤坂3丁目下車、徒歩5分。

または、天神コアビル前より[系統番号7, 14, 200, 201, 204, 205]で赤坂3丁目下車、徒歩5分。

都市高速

都市高速 西公園ランプ(唐津方面行のみ降車可能)で降車、南方向へ車で5分、

または 百道ランプ(東西両方向降車可能)で降車、南東方向へ車で10分



福岡市美術館

〒810-0051福岡市中央区大濠公園1-6

telephone: 092-714-6051

http://www.fukuoka-art-museum.jp/

graphic design: koichi fujita

Ohtake Shinrou  
New Universe on the Road

大竹伸朗展  
路上のニュー宇宙

